

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより



医科と歯科の架橋となって65年

診療科紹介

当院は昭和30年に九州労災病院の門司分院として内科・外科・整形外科の3診療科で診療を開始し、門司労災病院として独立した後、昭和35年に歯科は初めて新設された診療科としてスタートしました。歯科開設当時は、歯科医師1名・歯科技工士1名・歯科衛生士1名の計3名のスタッフで診療を行っていましたが、現在は歯科医師1名・歯科衛生士2名の計3名のスタッフで診療にあたっています。

最近では、医科歯科連携の重要性が認知されてきており、病院歯科も少しずつは増えてきている状況ですが、全国の病院の中で歯科のある病院の割合は、まだまだ全体の2割程度にとどまっています。

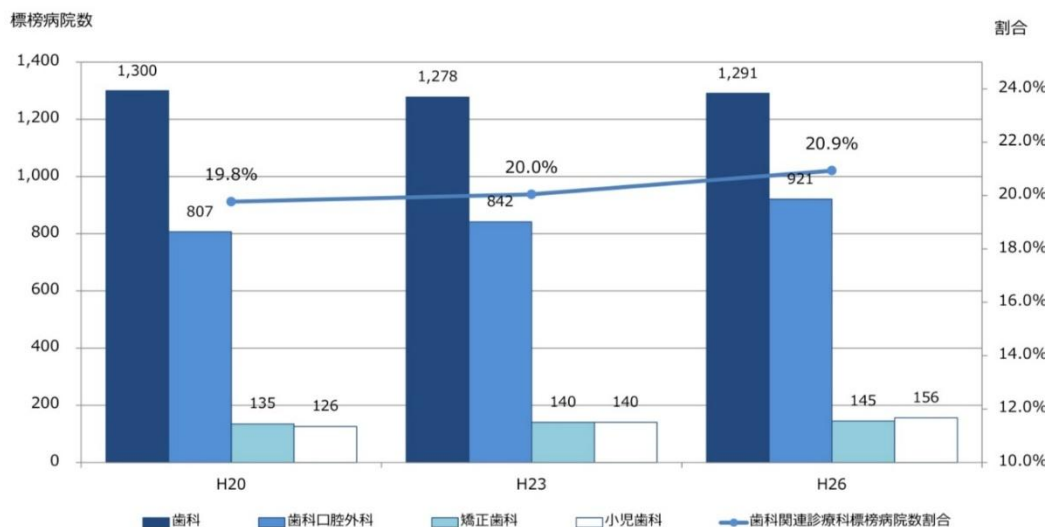
近年、日本は世界に例を見ない超高齢化社会を迎え、人生百年時代において、口腔の健康が、全身の健康維持や生活の質に直結するという認識も広まり、歯科医療の意義が改めて見直される時代になってきました。そういった意味では、当院は昭和の時代から門司地区における令和の超高齢化社会をも見据えた最先端の病院だったのかもしれません。



門司メディカルセンター
歯科部長 楠崎晴規

病院における歯科関連標榜科数及び割合の推移

○ 歯科の診療科を標榜している**いわゆる病院歯科は微増しているものの約2割程度**となっている。



注：歯科関連診療科標榜病院割合：
歯科、歯科口腔外科、矯正歯科、小児歯科のいずれかの診療科を標榜している病院／全体の病院数で算出
H20、H23については特別集計

(出典：医療施設調査)！

● 当院における医科歯科連携の取り組みについて

当科では、他科（医科）からの院内紹介を年間 200 例近くいただいておりますので、その主なものをご紹介します。

①（悪性腫瘍の手術・化学療法時や人工関節・脳卒中などの）手術の際の周術期口腔機能管理

がん治療の前後に専門的な口腔ケアを行う周術期等口腔機能管理は、今や医科歯科連携の代表例となりました。手術前に口腔内を清潔に保ち、歯の治療を済ませることで、術後の肺炎や感染症のリスクを軽減できます。化学療法・抗がん剤治療では、口内炎や口腔乾燥などの副作用も多く、サポートにより症状を和らげることができます。食べる・話すといった日常の機能を守ることも、医科歯科連携の重要な役割となっています。

②回復期等口腔機能管理

当院では昨年の 4 月から回復期リハビリ病棟が開設されました。それに伴って、当科では、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟に入院中の患者さんに回復期等口腔機能管理も実施しています。回復期リハビリ病棟では、病気やけがなどで入院や手術を受け、急性期を脱した後に医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。

この中で、歯科として口腔の健康を保つために口腔ケアや歯科治療を実施しています。

<回復期等口腔機能管理の具体的な実施内容>

- 1) 口腔ケア：歯や舌、口の中全体をきれいにし、菌の増殖を防ぎます。
- 2) 口腔体操：口の中や顔の筋力が低下している方には筋肉を動かす体操を行います。これにより、飲み込みにくさや発音のしにくさが改善されます。
- 3) 口腔内の観察と評価：定期的に口の中をチェックし、問題がないか確認します。必要に応じてむし歯や歯周病の治療、義歯作製などを行います。

<回復期等口腔機能管理を受けることで期待できること>

- ・食事の安全性の向上：病気やけがの後、口の中やのどの機能が低下すると、食べ物をうまく飲み込めなくなることがあります。これを改善することで、食事を安全に楽しむことができます。
- ・感染予防：口の中が不衛生だと、菌が増えて誤嚥性肺炎などの感染のリスクが高まります。定期的な口腔ケアによってこれを防ぎます。
- ・生活の質の向上：口腔機能が回復すると、食べることや話すことが楽になり、日常生活の質が向上します。

③患者さんの栄養状態の改善

口腔ケアをきちんと行うことにより、口腔内にある細菌を減らすことができ、また食事をたくさんとることができるようになるため、栄養状態がよくなります。それにより免疫力がアップするとも言われています。

当院では、入院患者さんの栄養状態をサポートするために様々な職種の人で作られたチームで、栄養管理を行っていく栄養サポートチームがあります。口腔内に問題がある場合は、その栄養サポートチームに歯科医師が参加するケースもあります。

● 医科歯科連携がもたらす4つの大きなメリット

主に次の3つの大きなメリットが挙げられます。

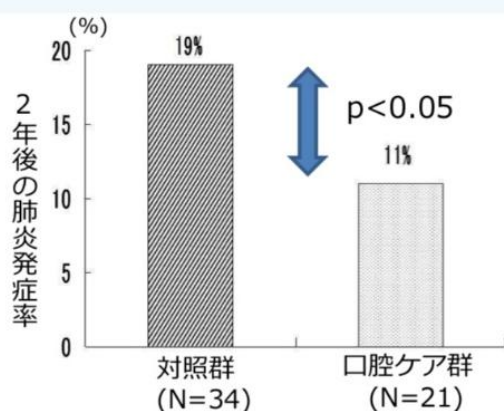
- 1.術後肺炎や誤嚥性肺炎の予防や早期に患者さんの栄養状態の改善を行っていくことにより、入院期間の短縮が見込めます。
- 2.医科歯科が連携することによる診療報酬が拡充されてきている。
- 3.医科歯科連携で医師、看護師が対応できない口腔ケアをすることで、患者さんの体調の早期回復と、術後の合併症の予防につながる。
- 4.最後まで「口から食べる楽しみ」を支える。

このように医科と歯科が連携し、歯科医が患者さんの口腔ケアを行うことで、今までかかっていた時間よりも早く患者さんの回復を助けることができます。

口腔ケア等による効果

要介護者に対する口腔ケアによる肺炎発症率の抑制効果

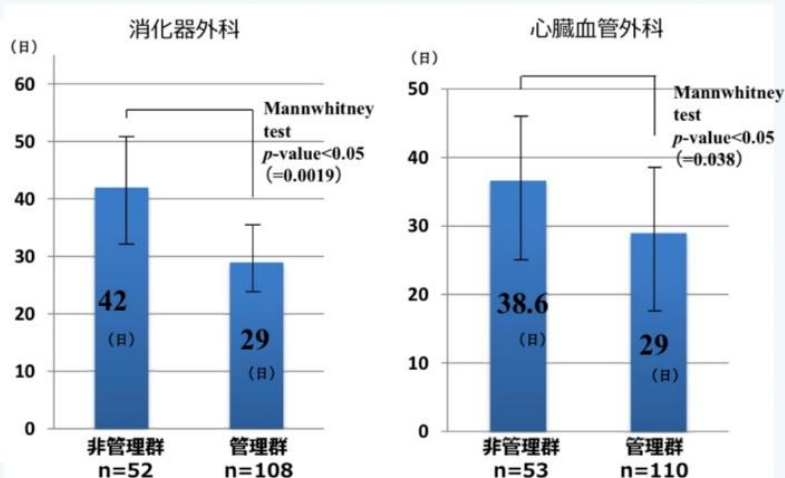
対照群に比べて口腔ケア群では2年間の肺炎発症率が低い



Yoneyama T, Yoshida Y, Matsui T, Sasaki H: Lancet 354(9177), 515, 1999.

入院患者に対する口腔機能の管理による在院日数の削減効果

在院日数の削減効果が統計学的に有意に認められ、その効果はほぼ10%以上あることが明らかになった。



中医協専門委員提出資料 (平成25年11月22日)

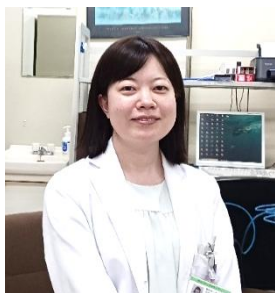
● まとめ

以上、いくつか当院における医科歯科連携の代表的なものをお話しいたしましたが、近年骨粗しょう症の治療薬（ビスホスホネート製剤関連薬）の投与前に歯科治療・口腔ケアをすることで、顎骨壊死のリスクを減らすことも知られてきており、また睡眠時無呼吸症候群での口腔内装置の作製や内科で糖尿病治療の際の歯周病の並行治療など、もし当科でお役に立てそうな症例がございましたら、お気軽に何なりとご相談ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

✿ 糖尿病・内分泌代謝内科医師／京田 紗詠子（きょうだ さえこ）



初めまして。2025年10月より門司メディカルセンター糖尿病・内分泌代謝内科へ赴任いたしました、京田紗詠子と申します。

9月までは産業医科大学第1内科にて研修、診療に従事しておりました。糖尿病内分泌代謝疾患のみならず、より幅広い分野で経験を重ね、門司地区の地域医療に貢献して参りたいと存じます。精一杯努めて参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

＊専門分野：内分泌代謝・糖尿病内科

＊趣味：旅行 🧳

✿ 脳神経外科医師／三井 敬仁（みつい たかひと）



10月から門司メディカルセンター脳神経外科に赴任致しました三井敬仁と申します。山口県の徳山中央病院での初期研修を経て、産業医科大学脳神経外科で研鑽を積んでまいりました。特に脳血管障害に関心を持っています。患者さんに寄り添い、地域の先生方と連携しながら質の高い診療を行えるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

＊専門分野：脳神経外科

＊趣味：卓球 🏓 ・ドライブ 🚗

医師の異動について

退職

令和7年9月30日付で退職となりました。
お世話になりました。

糖尿病・内分泌代謝内科医師
脳神経外科医師

西岡 莉奈 （にしおか りな）
浦勇 春佳 （うらいさみ はるか）

♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

入退院支援・患者サポートセンター 体制

（センター長） 大西 英生
（医事課長） 三宅 仁史
（看護師長） 古賀さとみ
（地域医療連携室事務） 香月洋平 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂
（MSW） 桂川陽子 前原知香 大石夏喜
（入退院支援看護師） 野副可奈子 岡本紀美子 村枝絹代 柴崎直子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号

TEL：093-332-7616（連携室直通）

093-331-3461（病院代表）

FAX：093-331-3466（連携室専用）

PHS：093-332-1250（連携室担当看護師）



発行 （独）労働者健康安全機構 九州労災病院 門司メディカルセンター 患者サポートセンター